



株式会社菅原組

社内報

vol. 7

2020年4月号



取締役 管理本部営業部長

すがわらしゅん
菅原 峻

管理本部営業部として主に入札関係書類作成などを担当、また環境課や水産関係も兼任。環境活動や水産関係の勉強会などにも積極的に参加中。

函館建設業協会下部団体の函館建青会に所属、道南地域建設業界のPR活動など社外活動も実施。

そんな多方面で活躍されている菅原さんに、入社から今までのストーリー、そして社外での活動を自社に還元させたいという思いについて伺いました。

入社のきっかけ

農林業機械メーカーで営業・サービスをしていた前職、子どもが生まれるタイミングで現会長から声をかけていただいた事が転職のきっかけです。

菅原組が東北で活発に仕事をしており、何度か実際に現場を目にする機会がありました。未曾有の災害に対して復興支援という形で実際に力を発揮できる業種である事を改めて知り、関心を高めたことが決め手となって入社しました。

印象に残っている仕事について

一つは、前述の函館建青会の事業で函館工業高等専門学校

校生を対象にした現場見学会の立ち上げに携わった事。現場選定はどこに？具体的な内容は？学生はどこまでわかる？などわからないことば



かり。

学校側からは生徒が学んでいる知識と現場との繋がりがわかる見学会という要望があり、それにより大幅な変更をしたりしました。現在も毎年よりよいものにしていくと協議・開催を続けています。

建青会の活動では他の工事分野の方々の知見に触れることが出来、他社の次期経営者の方々から様々な話を聞くことで、多くの学びを得ています。

次に、菅原組創業の地である松前町と行っている植樹・育樹活動について、社内や松前の方にも海と山の繋がりをもちと知ってもらいたいと考えて行っています。この活動では松前中学校の新設時に伐採・資材利用された跡の町有林地で植樹・下草刈なども行っています。植える際は中学生も参加し、植樹した木は自分たちが使うわけでなく、次の世代に繋ぐという行為が重要である事を伝えられています。この「次代に繋ぐ」事は、どんな仕事でも重要なことですね。自分たちの仕事を早く伝え、それをよりよいものとしてもらえるかを常に考えることが大事だと思います。

学生との交流について

学生との交流を通じて、世代間ギャップを埋めていき

たいです。また、教育の変遷に敏感に対応して、社内も変革していく事が大事だと思います。キャリア教育という将



来の仕事について考える授業で取り入れてもらえるように、色々な取り組みを提案しています。先日小学校のバザーに参加させてもらいました。児童・生徒の目に触れることで将来の担い手対策にもなり、また地域企業として地元の方に必要とされる企業でなりたいと活動しています。

今後の目標

建設業というと地元密着のインフラの整備が私たちの仕事です。仕事をすすめる中で技術を持続・向上し、選ばれる企業である事を目指しています。特に海とのつながりが強い企業として、養殖事業にも力を入れて地元水産業の安定化を図りながら、今後の漁港インフラの在り方を考え、今後の会社の技術力・経営力向上につなげていきたいと思っています。



菅原組 災害防止協力会主催！ 初級管理者養成セミナー

開催報告

開催 2020年2月13日(木)~14日(金)
9:00~17:00
場所 函館建設業協会
参加人数 4社10名
講師 (株)クラーク総研



テーマ

管理職としての人財育成・コミュニケーション力を強化し、総合的なマネジメント力「上司力」を習得する

ねらい

- ①自分を高め、人を活かし、組織を伸ばす管理職としての基本と心構えを再確認する
- ②的確な指示・命令と報連相打ができる「コミュニケーション力」を身につける
- ③業績を高め、組織を伸ばす業務遂行ができる「組織運営力」を習得する
- ④部下後輩の能力を引き出し、やる気にさせる「人財育成力」を養う

参加者の声

「今回の講座で学んだ人財育成、上司力・人間力の向上等について、講座で学んだ事を生かし、自分の弱点を克服できるよう頑張ります。」

「今回の講座に参加して、本質を見極めるトレーニングができ、とても有意義な時間でした。全従業員のベクトルの方向が合っていないと組織が統一体にならない、改めて意識していこうと思いました。」

「今回初めてセミナーに参加したが、今後は部下や後輩に対し技術・経験の継承等を含めて何が出来かを意識していきたいと思います。」

「経営者が会社を発展させるために社員にもっともっと頑張って成長して欲しいという思いもあるのだろう。だから自分ももっともっと成長して会社に貢献できる人間に頑張りたい。2日間という時間とお金を

掛けてセミナーに参加させてくれ、仕事を離れ客観的に仕事を振り返る時間をくれた会社にありがとうと御礼を言いたいです。今回の講座を自分が変わるキッカケにして人間力を向上させたいです。」

「今回、講座を受講して感じたことは、他社の方々も同じような課題を抱えているのだと感じた。私は、仕事を教えられたという感覚はなく仕事を覚えてきましたが、今は分かるように論理的に説明をしなければ育たないという事を痛感しています。部下を育てる前に自分自身がまだまだ勉強しないとイケないことが多々あります。また機会があればこのような講座を開いてもらい多くの人達の意見を聞きたいと思いました。最後に参加者皆で掲げたスローガン OHTS+NKG を早速、実行しようと思いました。」

事務局より

次年度も継続して人財育成に投資していきます。人財に困らない会社にするためです。会社を取り巻く環境が常に変化している中で、社員は今のままでいいということはありません。何歳であっても変化や人間的な成長、マネジメント力が求められます。この研修は何かは気付き変わるキッカケを作ってくれるものです。社員の成長は会社の成長です。共に学び共に成長していきましょう！



CHECK!

現場レポート

1

あんな現場やこんな現場、あなたの知らない現場や事例について
このページで紹介しちゃいます!



▲起重機船による囲いブロック据付

現場名

北海道津軽海峡地区根崎入舟増殖場造成工事

メンバー

ヤマダ ヒロト
工事部主任 山田 洋人さん

着工日

令和元年8月23日

完成日

令和2年1月20日

概要

キタムラサキウニを対象とした餌料藻場を造成することが目的。

囲い礁 A=4,740㎡
囲いブロック工 N=74個
石材工 V=4,266㎡



▲石材均し状況



▲囲いブロック製作完了

地元との協力

ブロック据付及び石材投入箇所の穴澗地先(函館漁港の近く)は、比較的海象が良く条件が良い場所ですが、風が良い時は、アワビ漁があり時間的制約がありました。

海上作業前に地元工事説明会を行ったため、漁業関係者はとても協力的で良かったです。



▲起重機船による石材投入

作業にあたっての感想

今回初めて、囲い礁の工事を担当しました。
過去に同種工事経験のある同僚からのアドバイスを参考にして工事を完了することができました。
ブロック据付・石材投入作業が12月からだったので、目標工程(年内完成)に間に合うかハラハラしましたが、第七すがわら号の艀装(スパッド取付)及び関係者の協力で目標工程内に終わり、ほっとしました。

作業に当たり気をつけるポイント

ブロック製作時での安全面では、すべてクレーン作業で行ったため、クレーン災害・挟まれ災害防止に努めました。
ブロック運搬時の安全面では、冬期間であったため運搬路の見通しが悪いので、交通誘導員を1名増員し2名配置しました。
又、運搬時は徐行・左右確認を徹底するよう周知しました。
ブロック据付時の安全面では、玉掛完了時の合図後の安全な場所への退避を徹底するように周知しました。
石材投入時の安全面では、潜水士による投入指示で行うため、合図の確認(有線電話による合図)を徹底するように周知しました。
品質面では、型枠と型枠の隙間からモルタルが漏れないように間隙材を使用し、出来映え向上に努めました。



▲囲いブロック据付完了

CHECK!

現場レポート ②

あんな現場やこんな現場、あなたの知らない現場や事例について
このページで紹介しちゃいます!



現場名

江良漁港波徐堤建設
その他工事

着工日

令和元年 9月2日

完成日

令和2年 3月13日

メンバー

工事部次長

イズミ ヒトシ

泉 等さん

コダマ ショウタ

工事部工事係

児玉 翔太さん

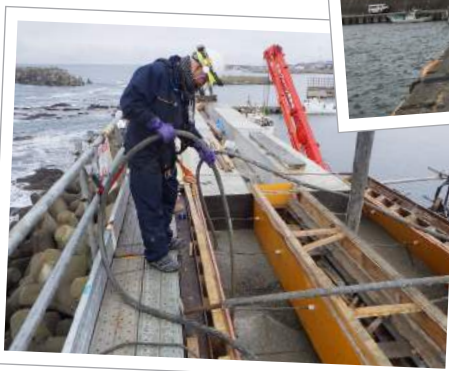
ヒラノ マサト

工事部工事係

平野 聖人さん



▲ポンプ車でコンクリート打設
▼バイブレーターをかけています



▲胸壁

大変だった所

他の地域に比べ強風が吹き荒れる現場だったので、1週間に3～4日ほど作業できない日がありました。その遅れを取り戻すため段取り変更や施工方法を考え直したりと頭を悩ませていました。趣味や友達との時間を作るのも難しくストレスも溜まりましたが、寮に戻ってみんなとおしゃべりしながら食事を楽しむことが、リフレッシュになっていたのだと思います。さらに構造物は地上からプラス11メートルの高さ、50センチという狭い幅だったので、いつも以上に安全面に気を配る必要がありました。

漁師さんの声

当初の予定では2月28日に完成させる予定でしたが、強風などの影響で工期を1か月延ばすことになりました。現場の目の前に漁師さんの船があったのですが、「いつ終わるの?」といつも楽しみにしてくださいました。協力業者の方にも良くしてもらい、何とか期限ぎりぎりに完成した日に、「よく終わったな」と声を掛けてもらったことが強く印象に残っています。



▲クレーンで吊り上げ型枠を設置

作業に当たり気をつけるポイント

高所からの転落を防ぐために、様々な工夫を凝らしました。具体的には、各段に足場を設置し、体にフルハーネスを括り付けて作業していました。そして安全への意識をみんなで高め、終始無事故で完成することができました。



▲朝礼の様子

こんな活動、知ってた!?

社会貢献活動レポート

★ 献 血 活 動

管理本部

三浦 杏香さんに聞きました!



日 時 2020年3月6日(金) 10:30~12:00

参加人数 社内、社外・一般の方の参加もあり、
計21名(内11名が社内)

場 所 (株)菅原組 本社駐車場にて
移動献血車「ひまわり号」内

当日の流れ 【献血の手順(1人20分程度)】
.....
..... 献血受付・問診回答→血圧計測・医師による問診
..... →血液事前測定・ヘモグロビン濃度測定→採血→休憩



活動を終えての感想

北海道における献血液の確保状況は、国の新型コロナウイルス対策の基本方針が出された2月25日以降、約30%も激減しているそうです。この非常事態宣言の中、白血病と闘う競泳女子の「池江璃花子選手」のTwitterが話題になっています。

池江選手自身も血液内科にいたため、献血の大切さを身に染みて感じており、「最近の献血数の激減により不安な日々を過ごしている方や献血液によって命を繋いでいる方もいる」と献血活動を支援するツイートをしています。このツイートの影響もあり、少しずつ血液の確保状況は回復していますが、今でもまだまだ足りない状況です。

昨今では、人の集まる場所へ行くことを自粛するムードが高まっていますが、北海道赤十字血液センターでは受付の時点で熱を測る等の安全対策を取っていますので、不安もあると思いますが皆様には積極的に参加していただければと思います。

また、今回で協力いただいた方々には感謝いたしますと共に、これからも献血活動をどうかお願いしたいです。

次回に向けて

北海道赤十字血液センターでは、今年の3月23日から中指か薬指のどちらかの指を小さい針に刺すだけで血液の検査が出来る予定だそうです。

メリットとしては少量の採血で済み、神経痛になるリスクが軽減します。

今まではこのような副作用が起こるため、献血を断念した方も参加しやすくなるのかなと思います。

また、メール会員になると集めたポイントで記念品をもらえる、血液の検査結果が葉書郵送よりも早く知ることが出来る等の嬉しいこともあるようです。

今後もこのような献血についての情報も社内報やSNS等で発信し、たくさんの方により深く知って欲しいです!





— おしらせ —



新型コロナウイルスが感染拡大しており、ご案内していた行事の予定が延期や変更となりました。
延期の行事については、後日改めてお知らせいたします。

5/7 グラム社内旅行説明会 延期

日程が決まり次第
お知らせいたします。



5/9、5/23 ウポポイツアー 延期

ウポポイのオープンが延期になりましたの
でツアーも延期します。
日程が決まり次第お知らせいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、従業員、ご家族の皆さまには5月のゴールデンウィーク中に
不要不急の外出、帰省や旅行を控えるようご協力をお願いいたします。

一人ひとりの自覚ある行動が命を救います。



HAPPY BIRTHDAY TO YOU !

4月生まれの皆さんをご紹介します。

4 / 3

工事本部 工事部員
まつだ なおと
松田直斗さん

4 / 12

管理本部 経理課長
かのう おさむ
叶野修さん

4 / 13

管理本部
みやざき きよし
宮崎清志さん